

## 主が定めた生き方（コリントの信徒への手紙一 7:17、20、21～26）

17 おのおの主から分け与えられた分（→本分：本来尽くすべき責務）に応じ、それぞれ神に召されたときの身分のままで歩みなさい。これは、すべての教会（→churches=ἐκκλησία：ekklēsia, ek-klay-see'-ah エクレシヤ※<sub>1</sub>）でわたしが命じていることです。・・・20 おのおの召されたときの身分にとどまっていなさい。

21 召されたときに奴隷であった人も、そのことを気にしてはいけません。自由の身になることができるとしても、むしろそのままいなさい。22 というのは、主によって召された奴隷は、主によって自由の身にされた者だからです。同様に、主によって召された自由な身分の者は、キリストの奴隷なのです※<sub>2</sub>。23 あなたがたは、身代金を払って買い取られたのです※<sub>3</sub>。人の奴隷となてはいけません。

24 兄弟たち、おのおの召されたときの身分のまま、神の前にとどまっていなさい。

25 未婚の人たちについて、わたしは主の指示を受けてはいませんが、主の憐れみにより信任を得ている者として、意見を述べます。

26 **今危機が迫っている状態にあるので、こうするのがよいとわたしは考えます。つまり、人は現状にとどまっているのがよいのです。**

※<sub>1</sub>：大衆の集会、特に宗教的な会衆(ユダヤ教の会堂、または地上の信者や天国の聖人、あるいはその両方によるキリスト教の共同体)、教会。

※<sub>2</sub>：パウロは、自分自身ならびにすべてのキリスト者をキリストの奴隷、僕と考えていた。

→ローマの信徒への手紙 1：1

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、

→フィリピの信徒への手紙 1：1

キリスト・イエスの僕であるパウロとテモテから、フィリピにいて、キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たち、ならびに監督たちと奉仕者たちへ。

※<sub>3</sub>：イエス・キリストの十字架の死により、神は人間のために完全なる犠牲を払った。

→ローマの信徒への手紙 3：25～26

神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義とさせるためです。

### 【参考】初心忘るべからず



しかれば、当流に、万能一徳の一句あり。

初心忘るべからず。

この句、三箇条の口伝あり。

是非の初心忘るべからず。

若い時に失敗や苦勞し、身につけた芸は、常に忘れてはならない。

時々の初心忘るべからず。

年齢とともに、その時々積み重ねていくものを、「時々の初心」といい、その時々にあった演じ方をすることが大切である。

その時々演技をその場限りで忘れてしまては、次に演ずる時に、身についたものは何も残らない。

老後の初心忘るべからず

老齡期には老齡期にあった芸風を身につけることが「老後の初心」である。

老後になっても、初めて遭遇し、対応しなければならない試練がある。 「花鏡」奥段より

※花鏡（かきょう）：『風姿花伝』以後、約二十年間の著述を集大成した能芸論書、著者は世阿弥。